

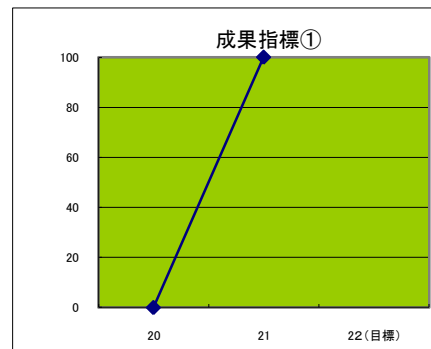
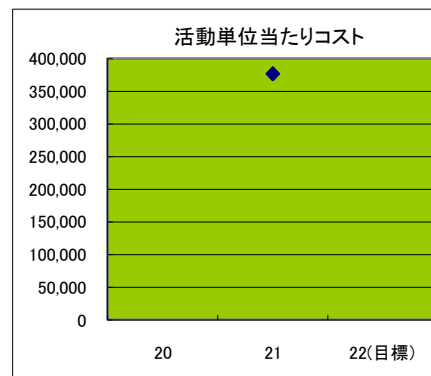
平成 22 年度 事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号

土道07

事務事業名		市道羽曳が丘西 3 4 号線道路整備事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	8	土木費
					項	2	道路橋梁費
					目	2	道路舗装改良事業費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	事業	67	住宅宅地関連公共施設等総合整備事業	
	施策(節)	9	道路交通				
	施策の方向	(2)	計画的な道路整備と維持管理の推進				
関連する計画等				作成部署 土木部道路課			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先 072 - 958 - 1111 内線 2221			
	市道羽曳が丘西 3 4 号線						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	「南河内健康ふれあいの郷」構想の住宅宅地事業の整備促進を図る。						
	当該路線は、大阪府住宅供給公社による団地開発の整備促進を図り、生活者の交通の利便性の向上、既存の羽曳が丘地区との連携や一体的なコミュニティの形成を図るとともに、主要地方道美原太子線と(都)八尾富田林線とを連絡する幹線道路としての役割を担う。計画延長 L=277m 整備済延長 L=96m 未整備延長 L=181m W=17m						
根拠法令等		道路法・道路構造令・交通バリアフリー法 他					
事業開始時期		☐ 昭和 14 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成		終了年度		平成 21 年度	
事業開始時からの状況変化		国の補助事業として、平成 14 年度から平成 19 年度までの補助採択期間での事業完了を目指していたが、用地取得の完了が平成 20 年度となり、道路整備工事は、平成 21 年度に施工完了、供用開始となった。					
市民や議会の要望							
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		119,977	62,215	
人件費【2】 (千円)		1,875	6,000	
職員数	正規職員	0.25 人	0.80 人	0.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		121,852	68,215	0
財源内訳	国費 (千円)	58,500	22,000	
	府費 (千円)			
	市債 (千円)	58,500	38,200	
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	4,852	8,015	0
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 道路整備延長	m	0	181	
② 用地買収面積	m ²	796		
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		円	376,878 円	円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		1,018 円	574 円	0 円



成果指標	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度
	①	道路整備率 (式) 整備済延長÷計画延長×100	%	計画延長に対し、どの程度整備されたか	目標		100.0	達成率(%)	
					実績	0.0	100.0	100.0%	
	②	全体事業費に対する実績事業費 (式)	千円	事業費ベースでどの程度進捗したか	目標	1,361,170	1,361,170	達成率(%)	
					実績	1,298,955	1,361,170	100.0%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	住宅開発における交通量の増加に伴い、道路ネットワークの強化において必要な事業である。
		○	○	○					○		

分析・評価

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	新たな住宅開発を起因とする新設道路であり、通過交通の分散化を目的とし、安全で利便性が高い円滑な交通流を担う道路である。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☒	☐	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	既存住宅内に新設する道路であるため、用地費・物件補償費が大きかったが、国庫補助金を充当して事業を進めてきた。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	閑静な既住宅地と新住宅地を直線で結ぶ基幹道路としての役割が高い。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	地域住民及び地権者から理解と協力を得られた。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	計画的な事業執行により平成21年度にて無事完了した。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☒ 完了	
	評価の理由	
	当該路線の必要性が高く、平成21年度で事業が完了した。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行革本部評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☒ 方法改善 ☒ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☒ 廃止・休止 ☒ 完了	
	評価理由・意見	